

高安ルーツの能後援会だよりその18

高安ルーツの能実行委員会事務局

TEL/FAX072-999-7491 MAIL takayasu@caepass.info

こんな時だからこそ、できることを探り継続を試みます。 高安薪能（コロナ感染防止インターネット無料配信）



収録 令和2年10月11日 於 玉祖神社境内

配信 令和2年12月1日～

番組 仕舞「井筒」梅若堯之○

「弱法師」林本大

能 観世流「葵上」

シテ：山中雅志○、ツレ：藤井丈雄、

ワキ：原大○（高安流ワキ方）、ワキツレ：

原陸（高安流ワキ方）、後見：塩谷恵○ほか、

笛：貞光訓義○、小鼓：荒木建作○、

大鼓：安福光雄○（高安流大鼓方）、太鼓：

上田悟○、地謡：梅若堯之○ほか

高安流出演者のインタビューと高安能活動紹介（会長）付

能楽高安流ゆかりの神社の紹介と歴史ある高安流の技芸の実演に触れてもらい、地域の宝物として次世代につないでいくことを目的に、主な出演者に重要無形文化財総合指定保持者を起用した能公演を行う「高安薪能」。令和2年度はコロナ禍の為、無観客で開催し、収録した動画をインターネットで無料配信中です。能の代表的演目「井筒」「弱法師」にゆかりの大阪府八尾市高安地区。能のワキや大鼓を担当する流派に「高安流」があり、その流祖は河内国高安の人であったと伝えられているそうです。（YouTube 検索「高安薪能」、「高安能」HPからもご覧いただけます。）文化庁文化芸術活動継続支援及び大阪府芸術文化振興事業の採択を頂き実施しました。令和3年度は10月10日（日）に能「山姥」仕舞「井筒」「弱法師」狂言「清水」を予定しています。今年度より、「高安薪能」は八尾市の文化事業として八尾市文化会館のアウトリーチ公演として運営されることになり、高安能未来継承事業推進協議会（企画担当高安ルーツの能実行委員会）は受託団体として引き続き活動を進めていくことになりました。市民発案の活動がこうして市の事業として認めてもらえるようになったのはすごいことだと思います。何より支えてくださる後援会、関係者の皆様のおかげと心よりお礼申し上げます。

御 礼

令和2年度「高安薪能」開催にあたり、皆様にご支援ご協賛をお願い致しましたところ、160,000円（高安能未来継承事業推進協議会合計）の御志が集まりました。又、「綱」創作など高安能活動全体へのご支援として、令和2年度会費75,000円、関係者寄付金250,250円をご入金いただきました。皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

令和3年3月31日 高安ルーツの能実行委員会 会長 橋本 久

能「高安」記録作成

2016年に復曲した能「高安」を記録として残すため、東京渋谷にあるセルリアンタワー能楽堂にて動画を収録しました。

監修 西野春雄

出演 シテ：山階彌右衛門○、ワキ：原大○、アイ：野村太一郎、笛：藤田次郎○、小鼓：田邊恭資、大鼓：安福光雄○、後見：観世芳伸○、山中雅志○、地謡：岡久廣○、浅見重好○、寺井榮○、ほか

能の世界に飛び込んでみよう！YouTube 配信中

毎年夏休みの恒例プログラムとなっていた八尾市文化会館プリズムホールの子ども能楽ワークショップ「能の世界に飛び込んでみよう！」。令和2年度はコロナ禍の為子どもたちに直接指導することはできませんでしたが、能楽師の先生方のご協力のもと山中能舞台にて動画を収録してインターネットで無料配信することになりました。YouTube プリズムホール公式チャンネルにて只今配信中です。（検索「能の世界に飛び込んでみよう」）

廃絶曲「綱」(つな)復活！いよいよ本格能舞台にて初演です。 令和に蘇る能「綱」研究公演

令和3年6月18日(金)午後6時半始 於山中能舞台

コロナ感染防止対策の為、日程変更・定員削減します

解説 西野春雄法政大学名誉教授

出演(予定)シテ：山中雅志○、ワキ：原大○、ワキツレ：原陸、アイ：善竹

隆平、笛：貞光訓義○、小鼓：荒木建作○、大鼓：安福光雄○、太鼓：

中田弘美○、後見：山階彌右衛門○、生一知哉○、地謡：武田文志ほか

アフタートーク 西野春雄、朝原広基(能楽研究家)、福田祐美子(鬼研究家)

室町時代に実在した曲で、能の名曲「羅生門」(らしょうもん)の後日談。鬼の腕

を切り落とした渡辺綱(わたなべのつな)のもとへ、腕を取り返すため訪れる鬼の

話。国指定史跡高安千塚古墳群(八尾市)の一つ、通称「手塚」の鬼の伝説にま

つわる能の制作を、西野春雄法政大学名誉教授に依頼し、公開の講座にて2018

年構想と詞章第一稿発表、2019年詞章第二稿・謡一部試演、2020年詞章第三稿・

謡全曲発表を行い、この度初演となります。能楽師の先生方により、どのような型

にするか、どのような囃子にするかといった、打ち合わせを兼ねた稽古が東京の国

立能楽堂研修舞台や大阪の山中能舞台にて行われ、能作品として具体化してきまし

た。いよいよ廃絶曲「綱」復活！しかし、西野先生によれば、これはまだ現在進行

形だそうです。演技や詞章に検討が重ねられ、この後も益々進化していきます。



綱 [作者] 西野春雄 [曲趣] 五番目物。鬼物。[場景] 京の都、渡邊綱の館。ある春の日。

[あらすじ]

① 綱が舞台に出て、ワキ座に着座する。

② 綱の従者が登場。腕を斬られた鬼が七日の間に取り返しに来るとの晴明の占いにより綱は物忌みし今日が七日目と告げる。

③ 平和な御代。春の夕暮れ。綱は窮屈な物忌みに心が屈しつつある。

④ 高安の里に住む綱の伯母が登場。鬼の腕を見ようと綱館へ向かう。都までの道行。

⑤ 到着した伯母は対面を乞うが断られ、門を隔て、綱の情に訴えて対面を懇願する。

⑥ 情にほだされた綱は門を開き、座敷に招き入れる。旅の疲れをいたわり、酒宴。

⑦ 綱は、歌舞の名手だった伯母に舞を所望し、伯母は山廻りの歌を歌い、舞う。

⑧ 伯母は鬼の腕を見せて欲しいと頼む。綱は断り切れず唐櫃から取り出して見せる。

眺めているうち伯母は面色変わり、腕を奪って姿を消し、綱は跡を追う。

—中入—

⑨ 綱館の様子を見に来た晴明の下人が異変に驚き、晴明へ報告に戻る。

⑩ 綱は鬼の行方を探し求め、正体を現した茨木童子と闘う。

⑪ 綱は勇猛に闘うも、茨木童子は逃げ去る。

(能「綱」謡本より)

連携企画

ECO ろうそく能 第十五回記念研究公演

能「綱」五感で感じる 能の世界

令和3年6月19日(土)午前10時始 於山中能舞台 大阪市阿倍野区阪南町6-5-8

コロナ感染防止対策の為、無観客にて開催し記録収録します

主催 (特・活) なにわ文化芸術芸能推進協議会 協力 高安能未来継承事業推進協議会

本文中、出演者等のお名前は重要無形文化財総合指定保持者には○印を付し、敬称を略して記載させていただいております